

之を研究いたし日本でも此頃に至つて、これ等の研究をして居りますから、漸次進歩して教育上に有益なる材料を得る様になるであらう。

Righteousness is a straight line, and is always the shortest distance between two points.

正義は一直線なり、而して常に二點の間の最近距離なり。



史傳

津崎矩子 (つさき のりこ)

下村三四吉

近衛忠熙公の幼時に當りて、矩子が保育輔導の任に與りしならんとの事は、前回に述べたるが如し。忠熙公は、文化十三年、九歳にして加冠の式を擧げ、右近衛權少將に任ぜられしを始めとして官位累りに進み、文政十七年には、十七歳にして已に内大臣に上り、正二位に叙せられき。これより十年を経て、天保五年、從一位に進みぬ。されど、公は、この間、はやく十三歳の春に、父基前早世の不幸にあへり。時に、鷹司政通、關白たり

しが、公と宗支の關係あるを以て、公の後見となりて力を盡くしき。されば、公は政通を父の如くに慕ひ崇め、公私を問はず、すべて教を政通に承けられき。内には、矩子の村岡は、老女として、いとも忠實に、いとも周到に、公を輔けまいらせけり。公の雄偉豊満なる体軀と温雅寛厚なる性情とは、その天稟なりしとはいへ、政通公と村岡（以下矩子を呼ぶにこの名を用ゐるべし）との内外の啓沃輔佐によりて、完全なる發達を得たりしならん。

この際に於ける村岡の事蹟に就きては、前節に記したる大概の外、その委曲を記述すべき材料を得ざるを以て、姑く右に止め、他日を待つて或は増補する所あらん。蓋し、一般婦人の務は、おはむね内事に關し、そが冥々の効果は非常に大なる

ものなれど、變故に遭遇せずば、多くは顯はれずして終るを常とす。古へより賢母良妻或は忠婢と賞讃せらるる人々につきても、その事蹟の詳細を知ることの難きは、かかる故なるべし。村岡の如きも、若し後來勤王の事蹟なくて終らば、固よりその名の永く世人に記憶せらるることはなかりしならん。

徳川十一代將軍家齊の在職は天明の末より寛政享和、文化、文政を経て天保八年に及べり。その間、凡そ五十年の久しきに亘り、位は人臣の尊を極め、所謂「大御所の世」は、即ち是れなり。文化文政時代はこの治世の中心にして、徳川氏のりゆう運は、方はその頂點に達し、太平の氣象海内に洋々たりき。されど、盛の極は衰の始め、治平の外観は、内に紛亂の萌芽を含めり。尊王の思想

は大に發達して、漸く幕府の根基を動かさんとし、西洋諸國の壓力次第に強く、「黒船」の影は近海に出没せり、村岡が始めて近衛家に仕へし同年に破しける林子平が憂慮は、彼れが豫想せしよりも早く事實の上に見はれ來りぬ。文化の初に於ける露國船の蝦夷地入寇及び英國船の長崎に於ける暴掠の如きは、機運潮流の變動する所識者を待ちて後知るべきにあらず、しかも、鎖國の禁は依然としてかたく、國人の懶眠は、なほもさむるに由なかりき。忠熙公が、從一位に昇叙せられしより三年の後、即ち家齊治世の末年には、大坂に彼の大鹽平八郎の叛亂起れり。間もなくして平定せられけれど、「梧桐一葉落ちて天下秋を知る」といへるもの、正に以て比すべし。されば、峻嚴なる水野越前守が天保度の改革も、終に幕府の頽勢を挽回するこ

と能はざりき。而して邊警の急は、刻一刻にその速力を加へ來れり。

弘化四年、忠熙公は正に四十歳、終に進みて右大臣に任ぜらる。孝明天皇即位の年に當れり。これより先、弘化元年「オランダ」國王は親書を徳川將軍家慶に贈り、西洋諸國相つぎて修交通商を請ふべければとて、懇に世界の大勢を述べて我が參考に供し注意を促しき。然るに、幕府にては、鎖國は祖宗の法なれば變すべからずとの、すげなき返書を送りしのみにて、且國民へは深く「オランダ」國王來書の趣をば秘して示さざりき。かかる間に早くも嘉永六年とはなりぬ。その六月三日といふに、米國の使節「ペルリ」四隻の大艦を率ゐて浦賀に入り來り、天下の動亂大にこれより始まらんとす。

(未完)